

平成21年度第6回 公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日 時：平成21年9月14日（月）午後1時30分～午後2時00分

場 所：公立大学法人熊本県立大学大会議室

出 席：学長 米澤 和彦
副学長 古賀 実※
文学部長 三木 悦三
環境共生学部長 大和田 紘一
総合管理学部長 松岡 泰
地域連携センター長 篠原 亮太※
学術情報センター長 山田 俊
文学研究科長 半藤 英明
熊本近代文学館館長 河原畑 廣
和洋女子大学学 坂本 元子※

※は、公立大学法人熊本県立大学教育研究会議運営規程第3条第1項の規程に基づく書面での意思表示による出席者である。

事務局：三角事務局次長、井上学生サービス担当次長兼教務入試課長、馬場総務課長、企画調整室上村主幹、教務入試課林田教務班長、教務入試課澤田参事

1 開会（進行：三角次長）

2 学長挨拶

3 議事（議長：米澤学長）

（1）審議事項

① 教員採用に係る枠取りについて

- ・アドミニストレーション論（総務課、総合管理学部）（資料1-1）

事務局から資料1-1に基づき、教員採用に係る枠取りについて、「総合管理学部1名。専門分野はアドミニストレーション論で、合計165コマ、准教授または講師を考えている。退職教員の補充であるが、専門分野を変更し、カリキュラムの重点化を図る。採用は平成22年4月1日を予定している。」との説明があり、総合管理学部長から、「前任者が担当していた憲法は教職科目でもあり、憲法担当者の採用が必要だが、前任者の他の担当科目についてはスクラップも考えているので、2、3年後のカリキュラム改正の時に併せて、憲法担当者を改めて採用することとし、今回はアドミニストレーション論の担当者を採用したいと考えている。総合管理学部は全国で唯一の学部学科であり、「アドミニストレーション」と名のつく科目が全部

で6科目ある。「アドミニストレーション」は学部の中核的な科目であり、学部の存続発展のために、その教員層を厚くし、磐石な体制にしたいと考えている。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

・ 看護学（総務課、総合管理学部）（資料1-2）

事務局から資料1-2に基づき、教員採用に係る枠取りについて、「総合管理学部1名。専門分野は看護学で、合計165コマ、教授または准教授を考えている。退職教員（前任者）の専門分野の変更で、カリキュラムの重点化による補充。採用は平成22年4月1日を予定している。」との説明があり、詳細については、総合管理学部長から、「大学院の教員の採用人事。看護管理コースが出来て4年たつが、看護人的資源活用論特殊講義の科目等は非常勤講師による集中講義で対応していた。このコースの院生は全て社会人であるが、非常勤講師による集中講義が多く、見直して欲しいという要望があっており、今回常勤教員を採用し、週1回の講義に切り替えるもの。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

② 学長候補者の選考について（資料2）

事務局から、資料2に基づき、学長候補者の選考について次のような説明があった。

「教育研究会議における学長候補者選考については、8月18日の第5回会議で意向調査実施を決定した。調査実施要領を策定し、8月25日にメールで全教職員に周知。9月2日、調査票の期間前投函を開始し、併せて全教職員に周知。9月9日、10日の両日調査票の投函を実施。投函終了後、米澤学長立会のもと集計を行った。調査対象者の総数は、130人。調査票投函者数86人、投函率66.2%。有効調査票数は85。集計の結果、13人の推薦候補者の氏名が上がり、うち学外者が2名。古賀実副学長が45、2位以下は調査票の数が10未満のため、教育研究会議での審議対象となる者は、古賀実副学長1人である。」

審議の結果、古賀実副学長を教育研究会議における学長候補者として選定することを決定した。

4 閉会 14時